



令和7年度

加古川市立 志方東小学校 学校運営説明会

R7. 4. 26

1 本校教育方針

2 複式学級を見据えた体制づくり



校長 藤本豊記

1

児童数 全校生 50 名

1 年 6 人、2 年 12 人、3 年 2 人、4 年 12 人、5 年 11 人、6 年 7 人

家庭的な学校

素直な児童が多い

学年を超えて仲がいい

大人（地域含め）からの見守られ感

安心感

特色① 児童数が少ない学校

⇒ **少人数を強味に**

- ・ PC 活用率は市内 1 番。



特色② 「地域の学校」

地域との密接なつながり

応援団（見守り・環境美化）

「精一杯活動」…大人の背中

「ふるさと教育」…体験活動

農業体験 城山登山等

⇒ **地域資源の積極活用**
（継続）

少人数の影響（人間関係固定化、自分の価値観、しんどさ）
きずつきやすい 自己解決が...
関係性における不安感
（競い合おう 自信をもって たくましく）



学校（みんなの場）でこそ
踏ん張ろう、
挑戦しよう、
役割を果たそう等々の

「向上心」 「強い心」の醸成は課題



○考える子「知」 ○やりぬく子「知」「徳」 ○助け合う子「徳」 ○たくましい子「体」「徳」

「心を込めて精一杯」で優しさが連鎖する学校づくり

[重点目標]

<少人数を活かす授業の創造>

- ① 1人1台端末の積極的活用
- ② ICT活用を通して「協同的な学び」と「個別最適な学び」の推進
- ③ 複式学級を視野に、少人数集団における効果的な授業づくりと指導者チーム体制の構築

知

<心の教育の充実>

- ① 豊かな人間関係づくりと体験活動（異学年交流・ユニット・体験・福祉）
- ② いじめ防止の取り組みの充実
- ③ 個に応じた適切な支援・指導ができる特別支援教育の推進
- ④ 道徳教育の充実と推進

徳

<健康と安全・強い心>

- ① 体力・意欲の向上
- ② 強い心の育成「目標」「協力」「役割を果たす」
- ③ 保健指導と安全・防災

体

<地域の光となれる学校>

- ① 地域とともにある学校づくりふるさと体験学習の充実
- ② 学校運営委員の参画
- ③ ユニットによる校種間連携学校間授業交流の推進
- ④ 情報発信

地域

[具体的な取組]

○端末使用のスタンダード化を継続・日々の持ち帰り、課題提出、文房具活用率市内突出状況を維持

○1人1台端末の積極的活用・協同的な学び・ICT活用を通して「協同的な学び」と「個別最適な学び」の推進

○複式学級を視野にカリキュラム、指導方法・指導体制（チーム体制）の構築に向けた研修と実践・全職員がかかわって検証し研修する・研究成果をリーフレットで配布

知

○少人数で課題となる人間関係づくりを促すために異学年交流やユニット交流を積極的に推進・複式学級を視野に異学年授業の充実・志

○未だに課題となっている「いじめ防止の取り組みの充実」・「個に応じた適切な支援・指導ができる特別支援教育の推進」

○道徳授業を中心に、児童の心に響く指導に努め、道徳的実践力を高める○「心を込めて精一杯」の精神を土台とした率直・感謝・優しさの体得

徳

○体育学習・体育的行事の充実と推進を通して体力・意欲の向上をはかる・運動会、マラソン大会、プール指導の充実

○自己肯定感の向上・「目標」「協力」「役割を果たす」の育成

○保健指導、生徒指導、安全指導を通じた規範意識や生活習慣の定着を図る・親子で学ぶネットトラブル防止講座・交通安全教室、避難訓練をはじめ、防災教育の充実

体

○地域の教育力を活用したふるさと学習の充実・環境体験学習・150周年に向けた地域・学校の歴史学習

○学校情報を保護者・地域に発信・学校だより・道徳だよりの発行・ホームページ更新（毎日）・スクリーン発信

地域

<教職員の育成・学校業務改善>

- ミドルリーダーを核とし、OJTや組織としての対応を通して教職員の指導力向上を図る。複式学級を視野にチーム体制を強化し、全校的視点で協働できる教職員集団をつくる
- タイムマネジメントに対する教職員の意識向上、定時退勤日（毎週水曜日）の徹底

[研究主題]

思考力、判断力、表現力の育成 ~少人数を活かす授業の創造~

<学校施設の更新>

- 教育相談室（旧特支学級）の新設 ○学習スペースの確保（合同授業）
- 図書室に「学習情報センター」の機能を加える（図書活動の充実、図書ボランティア、調べ学習・ICT活用の拠点）

[合言葉]

Challenge（チャレンジ）・Chance（チャンス）・Change（チェンジ）

<少人数を活かす授業の創造>

- ① 1人1台端末の積極的活用
- ② ICT活用を通して「協同的な学び」と「個別最適な学び」の推進
- ③ 複式学級を視野に、少人数集団における効果的な授業づくりと指導者チーム体制の構築

知

○端末使用のスタンダード化を継続
・日々の持ち帰り、課題提出、文房具化
活用率市内突出状況を維持

○1人1台端末を活用した効果的授業
実践を追究し、職員共有化を図る
・協同的探究学習をさらに発展させ、
ICTとの融合を目指す「加古川型ス
マート探究学習」の追究
・教員のICT活用研修の実施
・教育DX「デジタルトランスフォーメ
ーション」の推進

○複式学級を視野にカリキュラム、指
導方法・指導体制（チーム体制）の構
築に向けた研修と実践
・全職員がかかわって検証し研修する
・研究成果をリーフレットで配布

<教職員の育成・学校業務改善>

- ミドルリーダーを核とし、OJTや組織と
複式学級を視野にチーム体制を強化し、
- タイムマネジメントに対する教職員の理

知 少人数を活かす授業の創造

複式学級を視野に、少人数集団における効果的
な授業づくり

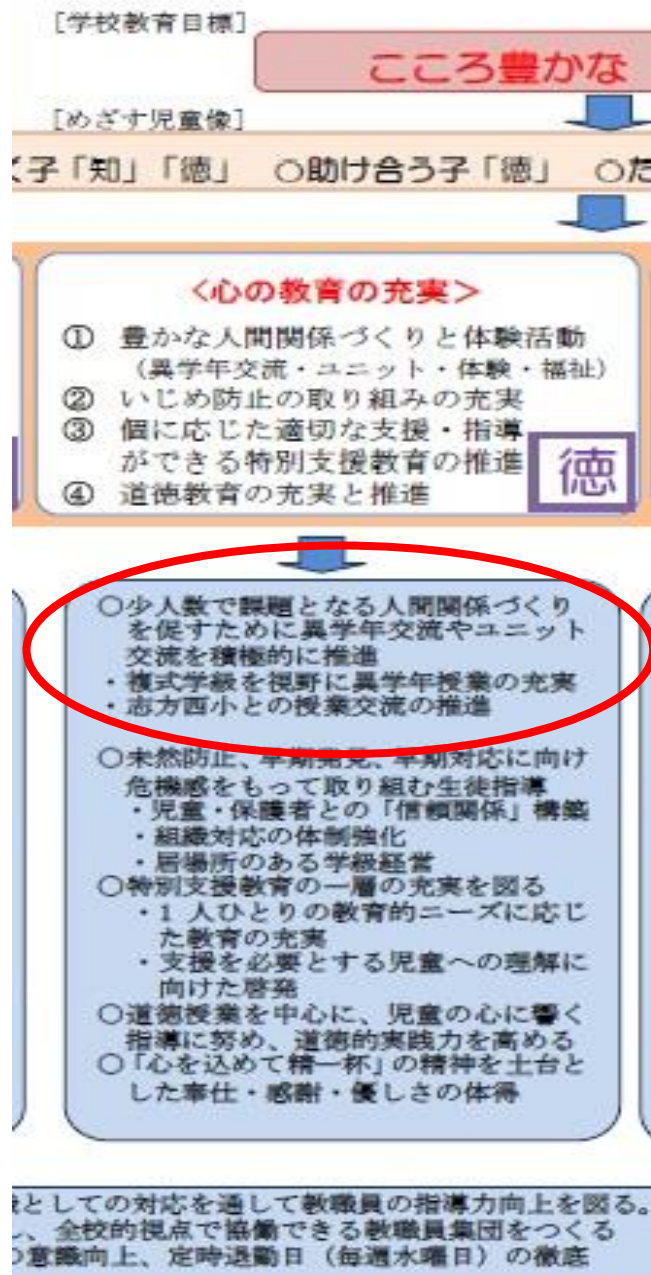
複式学級を視野にカリキュラム、指導方法・指導
体制（チーム体制）の構築に向けた研修と実践

・全職員がかかわって検証し研修する

・研究成果をリーフレットで配布

5





思考力、判断力、表現力の育成

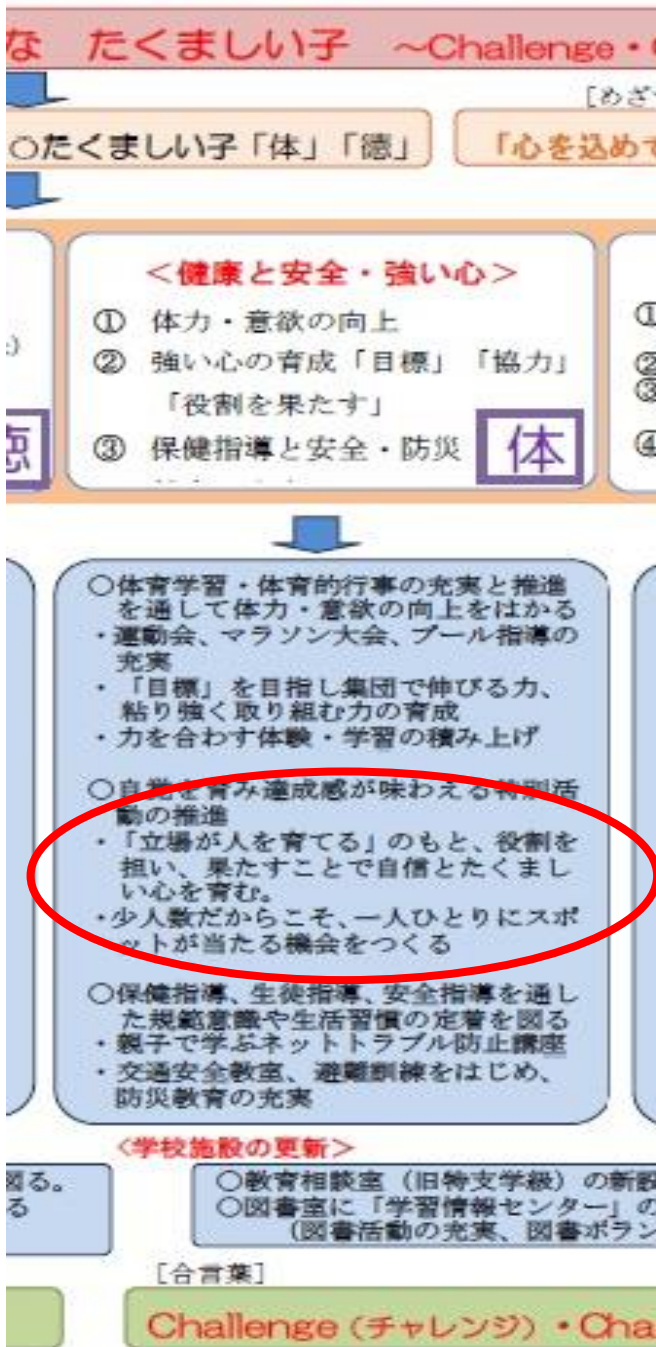
徳 心の教育の充実

豊かな人間関係づくりと
体験活動(異学年・ユニット交流)

少人数で課題となる人間関係づくりを促すため
に異学年交流やユニット交流を積極的に推進

- ・複式学級を視野に異学年授業の充実
- ・志方西小との授業交流
の推進





体 健康と安全・強い心

強い心の育成「目標」「協力」「役割を果たす」

自覚を育み達成感が味わえる特別活動の推進

・「立場が人を育てる」のもと、役割を担い、果たすことで自信とたくましい心を育む。

・少人数だからこそ、一人ひとりにスポットが当たる機会をつくる

7



地域

精一杯活動

ふるさと体験学習

＜地域の光となれる学校＞

- ① 地域とともにある学校づくり
ふるさと体験学習の充実
- ② 学校運営委員の参画
- ③ ユニットによる校種間連携
学校間授業交流の推進
- ④ 情報発信

地域



○地域の教育力を活用したふるさと学習の充実
環境体験学習・150周年に向けた地域・学校の歴史学習

○学校運営協議会との連携・協働を強化し地域の特色を生かした学校運営を充実させる。
・学校運営委員の学校運営への主体的参画（環境美化・安全・生徒指導）

○ユニット交流の積極的推進。
・直接ふれあえる学年間交流の実施（学校規模適正化の流れを踏まえて）
・西小との定期的な集団保障に努める

○学校情報を保護者に発信
・学校だより
・ホームページ
・スクリーン発信

の新設 ○学習スペース
ー」の機能を加える
ボランティア、調べ学習

Chance（チャンス）



8



令和7年度以降の学級編制について

1 複式学級編成基準

兵庫県教育委員会（公立義務教育学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律）によると、小学校では、**14人（連続する2つの学年）**、ただし**1年生を含む場合（1・2年）**は8人を複式学級の編制基準と定めている。

2 本校の児童数・学級数の推移について

学年	令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	12	1	6	1	6	1	9	1	19	1
2年	3	1	12	1	6	1	6	1	9	1
3年	12	1	(3)	1	12	2	6	1	6	1
4年	11	1	12	1	2	(3.4年 /4.5年)	12	1	6	1
5年	7	1	12	1	12		2		12	1
6年	13	1	7	1	12	1	12	1	2	
特支	2	1	0	0	未定					
計	60	7	(52) 50	6	49	5	47	4	54	4



・・・ギリギリ ひとり減ると
どちらかでなる可能性あり



・・・複式学級になる可能性大

3年生の2人の集団保障

複式学級を見据えての指導体制・教育課程のあり方探る

①学年合同の授業の実施 昨年度：体育（1・2年）（5・6年） 継続

3・4年…道徳（3年教室で）・体育・図工、
音楽・総合的な学習（1/2は一緒にする）
外国語活動（一緒にすることもある）

2・3年…学活（時には一緒にする）
※給食を一緒に食べる（週に○回）

1・2・3年…図書

3年生の2人の集団保障

複式学級を見据えての指導体制・教育課程のあり方探る

②教科担任色を強める（主に3年生以上で）

A教師 5・6年 算数・理科

B教師 3・4・5・6年 外国語の授業

C教師 3年算数・理科、4年理科

D教師 3・4・5・6年 社会

※他にも芸術教科、合同授業等で教科担任あり（全学年で）

3年生の2人にとっての集団保障
複式学級を見据えての指導体制・教育課程のあり方探る

①学年合同の授業の実施 ②教科担任色を強める

児童から見て

- ・多様な考えにふれ、学びを深める
- ・上級生へのあこがれ、下級生のお手本になる
- ・3・4年道徳を「4年」シフト 次年度3・4年は「3年」シフト
(次年度の複式学級を見据え 2ヶ年をひと区切りで)
- ・その教科を得意とする教師から学ぶことができる
- ・いろいろな教師との関係ができる(困ったときには頼れる)

3年生の2人にとっての集団保障
複式学級を見据えての指導体制・教育課程のあり方探る

①学年合同の授業の実施 ②教科担任色を強める

学校として 少人数を活かす強味に

- ・チーム制(教員)で子どもを見ていくことができる
より多様な目で 50人を総力戦で 児童の安心感に
たくさんの人格(教師)にふれることができる
複式になればチーム担任制も
- ・指導におけるタテの系統性をつかむ⇒教育課程の編成
複式学級が2つになる(2年先)
⇒ 主要教科の異学年同一教室(教師一人で指導も)

複式学級 学習形態のパターン例

仮に4・5年生の場合（**変則**組み合わせ⇔**順則**は1.2、3.4、5.6）

A：4年と5年が一緒に勉強をする

B：4年と5年が別々に勉強する

体育・図工・音楽・学活・

算数・国語・理科・社会

複式が1つなら学校のやりくりで可能



高学年専科の時間を複式クラスに

C：4年生が3年生と合同です

総合的な学習 外国語活動 道徳

D：5年生が6年生と合同です

外国語科・総合的な学習

基本、担任は1人だが、やりくりでチーム担任も可能
（教員数は減るので厳しい面がある。あくまでも複式学級が1つの場合。）

- ・「少人数を活かす」視点を大切に

授業（合同集団で 教科担任 いろんな教員との関係）
特別活動で 一人ひとりにスポットが当たる学校
50人を教師総力戦で見っていく学校に（チーム制）

- ・「強い心」の育成を

⇒ 「チャレンジ・チャンス・チェンジ」（今年度のテーマ）
学校だからこそ「自分を磨こう」「向上心」

・学校行事のあり方について 持続可能なかたちに（教師数減少）
学習発表会 ⇒ 今年度は「音楽発表会」に

※学習発表系については2月参観日に

- ・2026年（来年度）は11月に創立150周年記念式典予定

式典で児童の発信（学校の歴史・地域）及び歌唱あり

・個人情報管理 : 教室での個人発表ではご家族のみの撮影を

^{あした}「また明日」^い行きたい学校^{がっこう} みんなでつくろう！
ひがしっ子スピリッツ : Challenge(チャレンジ)・Chance(チャンス)・Change(チェンジ)

「志方東小学校は子どもと
ともに全力で進みます。」

16

